

## 校名： 京都教育大学 附属京都小中学校

### 所在地：

(初等部 1～4年) 〒603-8164 京都市北区紫野東御所田町37番地 電話番号：075-441-4166  
(中高等部5～9年) 〒603-8163 京都市北区小山南大野町1番地 電話番号：075-431-7131

記載日：2016年 4月20日 記載者：垂井 由博・小原 武 記載者役職：副校長

### 貴校の校風，おおまかな特色について：

#### 小中一貫教育学校として

13年間におよぶ研究実績とシステム開発をもとに，平成22年4月から4-3-2区分制の完全小中一貫教育を実施。→平成29年4月より「義務教育学校」への移行準備中。

#### 特別支援学級を併設

義務教育9か年の特別支援学級教育研究を実施。本学附属特別支援学校との協働研究を実施。通常学級児童生徒との交流活動を推進。

#### 自主性・自発性を柱とする多種多様な行事・活動

児童生徒の発達段階に応じて義務教育9か年の学校行事や児童生徒活動を効果的に再配置。3年生から9年生まで学年毎に宿泊行事を配置。9か年の様々な学年の組み合わせによる多種多様な学校行事や児童生徒活動を通して，自主性・自発性を柱とした児童生徒活動を展開。これからの時代，グローバル社会に求められる資質・能力を育成。また，平成9年度以降，20年間継続実施している国際交流，タイ国中高等学校との生徒相互訪問交流活動を実施。

伝統的に児童生徒の自主性・自発性を促す教育を通じた

自由闊達な校風のもと 真に社会で活躍する人材の育成を目指す

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

高等学校への進学状況は，京都教育大学附属高等学校に連絡進学枠が設けられており，本校より在籍生徒の約65%が進学。約35%は公立・私立高等学校への進学者。毎年ほぼ全員が高等学校へ進学。高等学校卒業後は，95%以上が大学へ進学。

本校には同窓会組織があり，以前は小学校・中学校それぞれに同窓会をもって活動。本校が名実ともに小中一貫教育学校となったことを機に，平成24年度に小・中の同窓会が統合し，より強固な組織となって，活発に活動している。(名称：東櫻同窓会 会員数：約10,000名)

本校の卒業生の動向は，本同窓会が詳細に把握している。著名人多数を含み，地元京都をはじめ，日本全国で，各界において活躍者多数である。

本同窓会は，定期的，頻繁に理事会・役員会をもつなど，本校と連絡を密にしているほか，3年に1回総会を開催し，恩師も交えた同窓生の交流活動を展開している。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本学(京都教育大学)が京都府・京都市教育委員会とそれぞれに人事交流協定を結び，定期的に懇談会をもって情報交換を行っている。本校での勤務経験を生かして，校長，教頭，指導主事等をはじめ様々な分野で活躍されている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

## 小中一貫教育学校 ～義務教育9か年を通して子どもの育ちを見つめる～

### 経緯

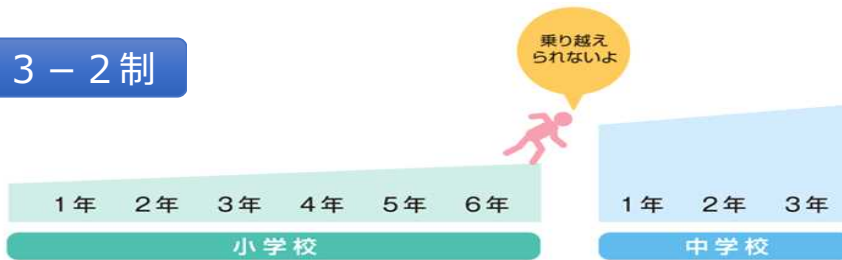
(小中一貫教育学校設立関係)  
 H15～H20 文科省研究開発学校指定  
 H21～ 教育課程特例校の指定  
 小学5年，6年の普通教室を移設  
 小学5年以上に配膳型給食導入  
 H22 (通称名)附属京都小中学校を使用  
 H25 中学校生徒募集を廃止

(その他)  
 H24～H25 生徒一人一人の認知促進に着目した論理的思考力育成プログラムの開発(思考力・判断力・表現力) (NIER教育課程研究指定校)  
 H27 ICTを活用したアクティブ・ラーニングによる論理的思考の育成 (パナソニック教育財団実践研究助成)

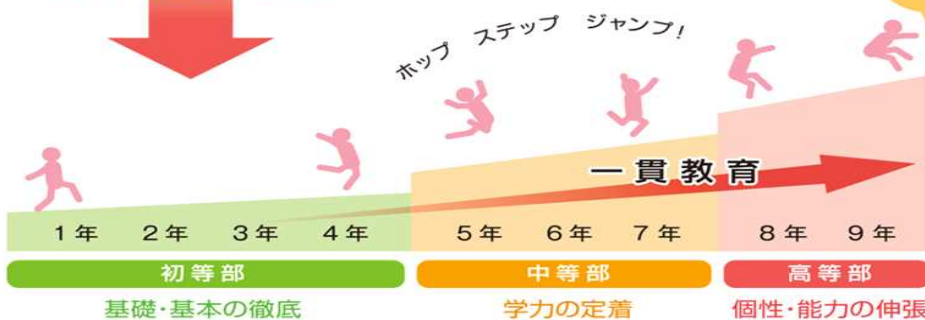
### 施設



### 4-3-2制



### <小中システムの融合>



- 初等部1～4年  
基礎・基本の徹底
- 中等部5～7年  
学力の定着  
・教科担任制導入  
・旧中学校域へ移設
- 高等部8～9年  
個性・能力の伸張

2003年度より 全国に先駆けて

### 小中一貫 教育課程・教育システムの研究と構築

13年間におよぶ研究実績と蓄積

全国や地域に発信・還元

小中一貫教育学校として、  
 全国の拠点校  
 地域のモデル校

地域における **フロントランナー** として 「義務教育学校」 へ移行

## 小中一貫教育の取組と成果

多様な学年の組合わせによる活動・学習



### 取組

### 成果

#### 特色ある教育課程の編成

- キャリア教育（キャリア発達能力を育む教育）を中核とした
- 1～9年の系統的教科学習カリキュラムの編成
- 1～9年に「英語科」を設置。9か年英語学習カリキュラムを確立
- 認知促進プログラム（CASE）を5～7年を中心に8・9年まで系統的に実施
- 様々な学年組合せによる学習集団の編成（例：5・6・7年総合学習，4・8年総合学習）

- 特に小1からの系統的カリキュラムで実施する「英語科」の学力向上は著しい
- 認知促進プログラム（CASE）をはじめ、小中一貫したカリキュラムによる思考力等の向上

#### 学校行事，生徒活動等の再編

- 学校行事を9か年系統的に再編成・再配置。
- 諸活動，諸学校行事による縦割り学年の組み合わせを9か年で効果的に再編成

- 縦割り学年の組み合わせにより、ビギナー・リーダー体験を繰り返し、人間関係・社会形成能力が向上
- 効果的に配置した学校行事による様々な資質・能力の向上
- 4-3-2区分制による「中1ギャップ」の解消，中1段階での不適応や不調が減少

#### 教職員組織の一体化

- 職員会議，研究活動は，全教員で会議をもちながら推進

- 児童生徒情報を小中教員で共有して，日常の指導に活用
- 9か年の子どもの育ちを見据えた教育研究活動が推進

## 英語教育【1～9年】・科学的思考力育成(CASE)プログラム【5～9年】の設置

～小中一貫教育の特色ある教育課程を実施～

（文部科学省「教育課程特例校」指定）

- 1年（小1）～9年（中3）の9か年英語科教育課程を編成  
→ 「教科」としての英語科を設置，英語能力の顕著な向上
- 5年（小5）～9年（中3）の科学的思考力育成プログラム  
→ 「認知促進」や，科学的思考力の顕著な向上

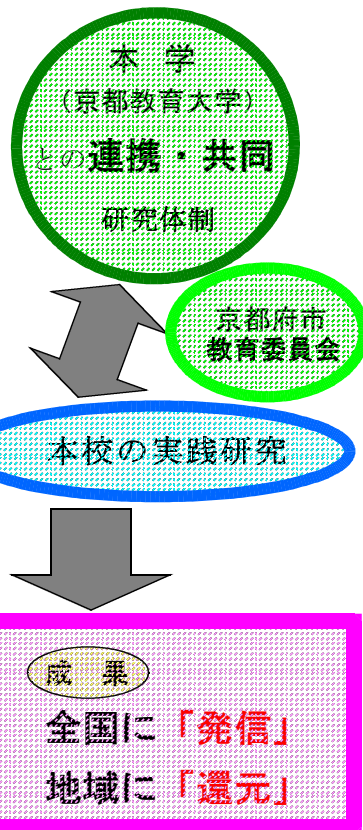
### 特別支援学級を併設 ～義務教育9か年の特別支援教育～

- 小中一貫教育学校としての特別支援学級教育研究の推進

### 現代的・先進的な課題に対応した教育実践研究

～小中9か年を通じた教育実践研究～

- 2001～2002 「自己実現を目指す新教育課程『京都プラン』」
- 2003～2008 「9年制義務教育学校設立に向けた教育システム」
- 2008～2010 「英語教育改善のための調査研究」
- 2009～2011 「国際化社会に対応し自己実現を目指す生徒」
- 2012～2014 「思考力・判断力・表現力の育成」
- 2015～ 「グローバル社会に生きる資質・能力」



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- **先導的・先進的教育実践研究成果を提供する「モデル校」「フロントランナー」**
  - 近年では「**小中一貫教育システム**」の**成果提供**
  - 地域の公立学校等小中一貫教育学校化（連携型を含む）に貢献
- **将来、真に社会で活躍する人材を育てる学校**
  - **地元京都**での著名人や、各界で第一人者として活躍する**多数の人材を輩出**
- **京都地域の中でも、経済的負担が少なく高度な教育を受けることのできる学校**
  - 少子化の中、通学区域制限（小1として通学できる範囲）の中も、**地域の入学希望者多数。**

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

教員養成系大学である京都教育大学の附属学校として、本学と協働、京都府市教育委員会と連携して行ってきた**先導的・先進的教育実践研究**の数々は、教育理論面からの裏付けも得た成果として、特に**地元京都の教育の参考モデル**として長年生かされてきている。先導的研究として近年15か年においては、必修教科・選択教科と総合的な学習の時間の創造、学期制の変更、道徳教育の研究、思考力育成プログラム、英語教育研究、小中一貫教育システム研究等があり、京都の教育に採用されているものが数多く見られる。大学と協働した教育理論面からの裏付けを得た教育実践研究の成果を広く提供できるのは、附属学校ならではの環境とノウハウがなし得るものである。

1882年京都府師範学校附属小学校創立以来、135年の歴史と伝統をもつ本校では、創立以来、知識・技能の蓄積に留まらない、**真に「生きる力」を育む教育理念**が根底にあり、学校行事や児童生徒活動との有機的連携を図りながら子どもを育てるノウハウをもつ。これらを継承しながら、人事交流などで京都の公立学校へも伝承され、**京都の個々の学校運営や学校づくりの柱**とされてきている。

本校は京都教育大学の多数の学生の教育実習の場の一つとして活用され、本校において教育実習指導を通して、本校教員の資質や指導力向上が見られる。また、本学で学び、本校にて**教育実習指導**を受けた学生が**地元京都の教育に貢献**するという好循環を生み出している。

13年間の研究実績がある**小中一貫教育課程や学校システム**はモデル校の一つとして**全国からの視察**が相次いでいるが、特に、長年京都において、京都教育大学やその附属学校である本校が**地元京都の教育に貢献してきた実績への評価**と、**今後の期待**には大きいものがある。



西エリア

東西エリアを結ぶ連絡通路

東エリア

**京都教育大学 附属京都小中学校 は、**

**平成29年4月より「義務教育学校」移行 準備中です。**